

新任社外取締役メッセージ



本間 洋 社外取締役

1980年に日本電信電話公社に入社。2009年に株式会社エヌ・ティ・ティ・データ(1988年設立)の執行役員を経て、2018年に同社代表取締役社長に就任、同社の海外事業の拡大や、日本人以外の役員の増員を進めた。2023年に株式会社NTTデータグループ代表取締役社長に就任。2024年6月以降は同社相談役を務める(現職)。2025年6月に当社社外取締役に就任。IT・デジタルテクノロジー等の情報通信分野での豊富な知見・経験と、経営全般に関する幅広い見識を有する。

これまでのキャリアについて教えてください。

私は日本電信電話公社に入社しましたが、当時の本業であった電話の事業に携わったのは3年ほどで、その後は主にITサービスの事業に従事してまいりました。キャリアの約3分の1が人事、広報、社長秘書、経営戦略などのスタッフ

業務で、残り3分の2は現場のシステム企画や開発を中心とし、金融や公共分野をはじめさまざまな業界のお客様と長年向き合ってきました。そのなかでも、私はコア事業よりも新しい領域の開拓や、課題を抱える事業の立て直しを図り、軌道に乗せるプロジェクトに携わることが多かったのですが、プロジェクトに問題が発生すると、お客様にご迷惑をかけ、社員も疲弊し、収支も悪くなり、機会ロスも大きいという四重苦に直面します。そうならないためには、計画的に源流を管理し、PDCAをしっかりと回していくことで、問題の早期発見につなげることが重要であると常に心掛けていました。また、難しいプロジェクトを軌道に乗せるには、チームワークも非常に重要です。プロジェクトメンバーはもちろん、パートナーやお客様との長期にわたる信頼関係をいつも大切にしています。

当社についてどのような印象を持っていますか。

1992年、当時のエヌ・ティ・ティ・データ通信株式会社は虎ノ門から豊洲センタービルに本社を移転しましたが、当時、私はオフィス移転プロジェクトの担当も務めていました。バブル崩壊の時期と重なり、入居後の豊洲はほかに際立つ施設もない状況でしたが、しばらくして「アーバンドック ららぽーと豊洲」等の商業施設や「アーバンドック パークシティ 豊洲」等の分譲マンション等を中心に街づくりが本格化し、食事・買い物・医療など次々に街が充実していく様をみて、街づくりはワクワクするなと感じたものです。今の豊洲は、働きやすいだけでなく、住む人にとっても楽しく豊かな暮らしができる街になり、街づくりが社会に生み出す価値の大きさを感じています。三井不動産グループの、オフィスや商業

施設のみならず、企業や地域をつなぐ新しい価値の創出、そして総合力を活かしたダイナミックな街づくりの手腕に、非常に刺激を受けています。最近の三井不動産グループは日本橋におけるライフサイエンスコミュニティの創造など、他者との共創による新しいビジネスに取り組んでいますが、こうしたビジネスの在り方は、日本企業を強くしていくことにも寄与していると考えます。

今後の抱負についてお聞かせください。

「& INNOVATION 2030」では、戦略を支えるインフラの一つとしてDXを掲げています。リアルとデジタルを組み合わせたビジネスモデルの確立、DXビジネス人材の育成、そしてデジタル基盤の変革を進められるなかで、私のこれまでの経験や知識、ネットワークを活かして、そこに貢献していきたいと考えています。

またIT人材といえば、ひと昔前は圧倒的にITベンダー側がその多数を抱えていましたが、最近ではローコードやノーコードによる開発等により、ユーザー側との垣根がなくなってきました。ビジネスのプロフェッショナルである「スーツ人材」と、技術のプロフェッショナルである「ギーク人材」がかけ合わさった「スーツ・ギーク人材」の重要性が増しており、これらの人材を相互に育て合う“人材のクロスオーバー”が今後の成長戦略を支えるカギだと考えています。社外取締役として、多様な価値観と技術革新が絶え間なく生まれる環境を整えるため、これまでの知見と現場感覚を活かし、現場・経営の“対話”を大切にしながら、企業価値の持続的向上に貢献したいと思っております。皆様とともに新しい未来を切り開いていくべく、誠心誠意努めてまいります。